

平成23年度 学級別生徒数

学 級	担任氏名	生 徒 数			PTA 会員数
		男 子	女 子	計	
コスモスA	西尾 達也	1	1	2	2
コスモスB	森本 昌士	2	0	2	2
コスモスC	平田三智留	0	1	1	1
1年A組	清水 奨	14	13	27	18
1年B組	松田 鉄平	14	13	27	20
1年C組	松葉 真一	14	12	26	20
2年A組	宮川 晴光	17	19	36	34
2年B組	蒲 成人	17	19	36	33
3年A組	加藤 陽介	17	19	36	36
3年B組	南波 一義	18	18	36	36
1年計		43	38	81	59
2年計		34	39	73	78
3年計		37	38	75	75
合 計		114	115	229	202



【1年 五色ヶ原研修】



【2年 職場体験学習】



【3年 ウルトラ遠足】

平成23年度 年間行事予定

月	主な行事予定	月	主な行事予定	月	主な行事予定
4	始業式・入学式 実力テスト 新入生歓迎会 生徒総会	8	資源リサイクル 2学期始業式 実力テスト 発育測定	12	三者懇談会 授業参観・懇談会 2学期終業式
5	授業参観・PTA総会 家庭訪問 スポーツテスト 3年東京研修	9	避難訓練 体育祭 2年キャリアスタートウィーク 3年ウルトラ遠足	1	3学期始業式 実力テスト 3年学年末テスト
6	1年親子奉仕作業 2年名古屋研修 1学期末テスト	10	3年高校一日入学 2学期中間テスト 駅伝大会	2	入学説明会 私立高校入試 公立高特色化選抜 感謝祭
7	1年五色ヶ原研修 中体連壮行会 中体連夏季大会 1学期終業式	11	合唱祭 市音楽会 2学期末テスト 三者懇談会	3	1・2年学年末テスト 3年修了式 第65回卒業式 公立高入試 修了式

学校経営の全体構想

★国府中学校は「夢や希望」が見つかる学校をめざします

＜高山市小・中学校教育の方針＞

○学び得た「生きる力」がやさしさのある社会の礎となる教育の推進
心に残る教育を創造する ～心にとどく指導をとおして～
【めざす姿】 ◇じぶんの力でうごきます ◇互いに認め合う ◇子どもが力をつける

学校の教育目標 「人間性豊かで活力ある国中生」

＜めざす学校像＞

「明るい夢や希望」をはぐくみ、その実現のための「生き方」を教える学校

学級指導	生徒会指導	授業指導	キャリア教育推進
互いの「願い」や「めあて」を支え合い、互いにその具現のために、共に歩み高まる『学級活動』	各学級の「願い」や「希望」が大切にされ、それが活動となつてかなう『生徒会活動』	「うまくできないこと」や「よくわからないこと」と対峙し、互いにそれを大切にしよう『授業』	「進路適正」を見いだす「相談活動」「豊富な情報」を提供できる「環境整備」「望ましい職業観・勤労観」を形成する『体験活動』
⇕	⇕	⇕	⇕
リーダー指導	願いやめあての醸成と援助	わからないと発言できる授業づくり	卒業後のイメージづくり
仲間の願いやめあての達成を支えようとするリーダーを育てれば、共に歩み高まろうとする人間関係づくりができる。	願いやめあて達成のための小さな努力の積み重ねと達成感があれば、自分のよさや可能性を信じる子どもが育つ。	わからないことやできないことを出し合い、それを補い合つて、問題・課題の解決を図る授業を実践すれば、子どもたちが有用感や存在感がもてる学習が成立する。	自分のよさや適正、興味・関心に対する十分な理解があれば、見栄や世間体にと左右されない自分らしい進路選択が実現する。

【私たちの願いー基本的な構え】

I 進路指導の学校になることをめざしています

どの子も、卒業証書を手にし、ステージから自分を見つめる人々に対して顔を上げ、一瞬胸をくっつと張る、それは「わたしには近未来に対する明るい夢や希望がある」と言っている姿、そういう子どもたちを育てたいと願います。卒業が近づき追いつめられてそうなるのではなく、その実現のための歩みをこつこつとしてきた子どもたちだからこそ、そうなるのです。中学校教育の使命はそこにあると考えます。

よりよく生きることを教えること、みんなが安心して生活できるようルールを遵守すること、勉強を熱心にさせること、公共の場で中学生らしく爽やかに立ち振る舞えること、自分の身を自分の力で守るよう教えること等、すべての指導がそこへ集約される、と言っても過言ではありません。

II 進路指導の中核は生き方の指導です

生き方とは、あるものの見方や考え方、感じ方であり、それにそつた行動であると、考えられます。人のものの見方や考え方、感じ方は、ある事象に正対したときに明確となります。東北地震被災地の悲惨さを伝える報道を目にしたとき、それをどう見て何を考え感じるか、そして、どう行動するかが、その人の生き方です。あるときは、それを教師が帰りの会で語って直接教え、またあるときは、学活の授業で仲間の生き方にそれを学び、また別のときには、進路講話等で世に生きるさまざまな人々の体験談によって学びます。

そして、自分のよさや可能性をだんだん自覚するようになります。それは、卒業証書を手にしステージから自分を見つめる人々に対して顔を上げ、一瞬胸をくっつと張ったときの生徒の姿です。

III 生き方指導の場はまずは係活動です

学校生活の中で、子どもたちが自分のよさや可能性を自覚する場面はたくさんあります。特に、係活動には、常時かつ継続的で、身のまわりの仲間たちとのかかわり合いが必ず生じるという特性があります。そういう中で、思いや願い、めあてをもち、継続的に新たな自分づくりに取り組みます。そのプロセスは、まさしく、新たな見方や考え方、感じ方と行動の仕方を身につける連続です。

係は自分を鍛えるためにある、どんな自分をつくるためにどの係を選びとるか、といったはじめの一歩の指導をまず大事にしていきます。

<国府中学校 教育目標>

人間性豊かで活力ある国中生

<めざす学校の姿>

「明るい夢や希望」をはぐくみ、
その実現のための「生き方」を教える学校

≪平成23年度研究テーマ≫

温かい人間関係を育む学級経営のあり方 ～仲間と関わり合い、認め合う活動の工夫～

<研究仮説>

- 1 自分の思いや願いを達成するために、粘り強く活動するリーダーを育てれば、「ともに歩み高まる」人間関係づくりができる。
- 2 一人一役で仲間に働きかける取り組みができれば、自分のよさや可能性を信じようとする子どもが育つ。

<研究内容>

- 1 一人一役に誇りをもって取り組ませるための指導
- 2 仲間の思いを知り、仲間のために力を尽くす生徒を育てる指導

<年間を通して取り組むこと>

「誰をどう育てるかという実践プランをもち、見届けていく指導」
・毎月、学級経営の「プランニング」を作成し、その子がどうなったかを見届けることで、事実をもとに、生徒の成長や課題を明らかにして、見通しをもった指導をする。

<今年度の全校研究会>

- ◆ 6月17日(金) 全校研 1年A組 清水教諭
プランニングと実践の交流(2A・3A)
- ◆ 11月15日(火) 全校研 2年B組 蒲教諭
プランニングと実践の交流(1B・1C・3B)
- ◆ 3学期(1月下旬) 実践の振り返り(全学級)



